

放送大学大学院博士後期課程

生活健康科学プログラム

生活健康科学プログラムが育成を目指す人材

生活科学、健康科学、社会福祉学及びそれらの学術領域における**高度な自立的な研究能力**を有し、

専門的かつ総合的な広い学識を**実践に活用**するとともに、**人々の生活と健康の向上**に資する**公共的施策**もしくは**地域社会の形成**をリードすることのできる人材、

及び当該領域において**自立的・創造的に高度な研究**を遂行することのできる**人材の育成**を目的とする。

修士課程 研究者としてスタート地点に立ち、**研究の目的、研究方法**などについて指導を受けつつ研鑽を積み、**修士論文**を作成する。

博士課程 自立した研究者として、**独創性・新規性のある研究**を実施し、**客観的な論述**を展開して当該研究分野でその**価値が認められる博士論文**を作成する。

生活健康科学プログラム 博士論文研究テーマ例

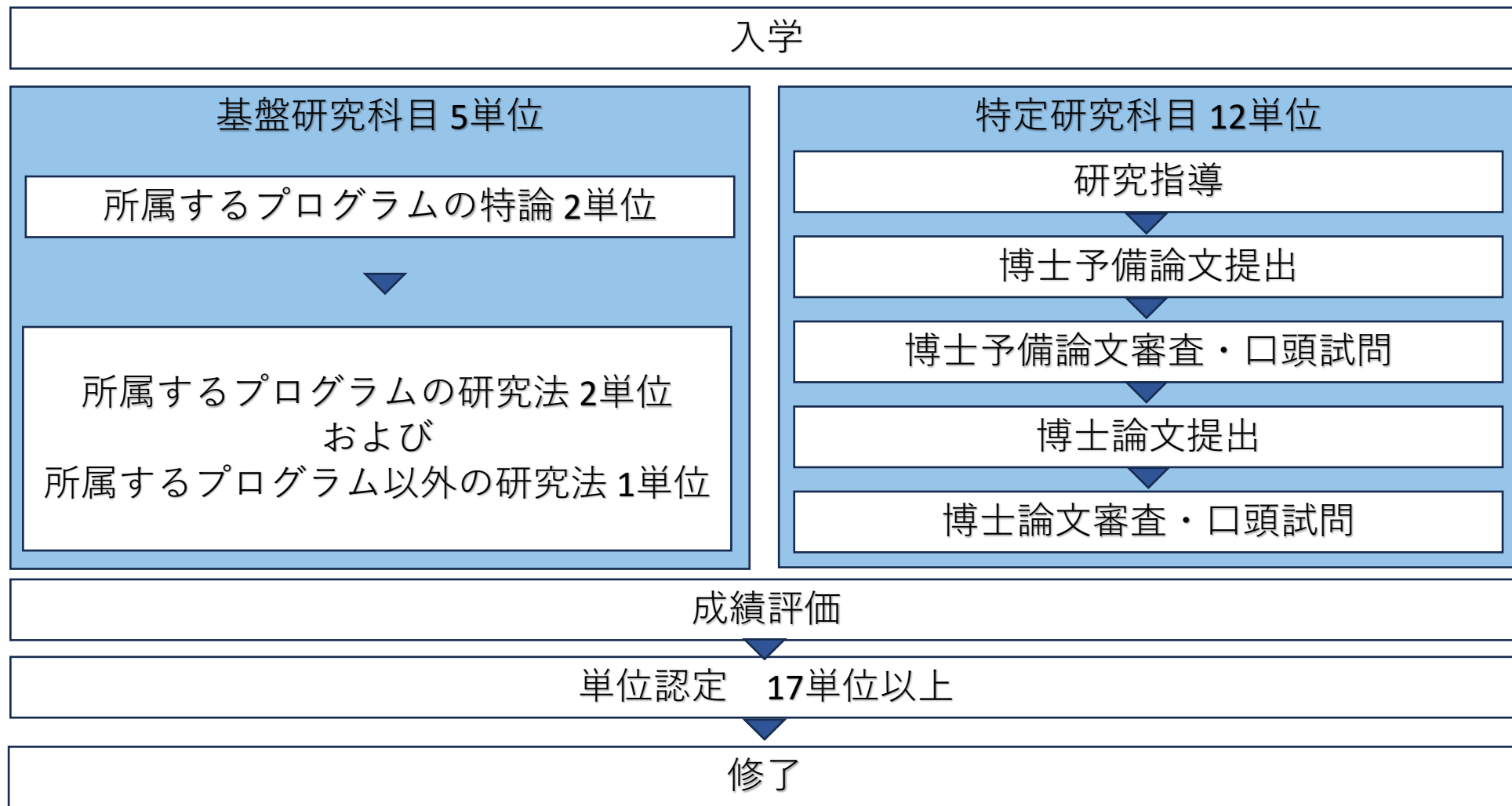
- 介護老人保健施設で働く介護職と看護職のメンタルヘルスに寄与する心理社会的職場環境に関する研究
- 家族介護者を主体とした介護生活マネジメントのための生活情報に関する研究—家族介護者の権利保障を確立するために—
- リハビリテーションにおける障害受容概念の批判的検討—障害を取り巻く当事者・親・療法士の三者関係—
- くも膜下出血（SAH）後の高次脳機能障害と回復過程—急性期における神経心理評価からの検討—
- 高齢者のテレビ視聴とフレイルとの関係—フレイルの人がテレビ視聴に求めるもの—
- 医療系大学生を対象とした「トータル・フィットネス」教育とその評価システムの構築
- 住宅取引における宅地建物取引業者の機能と限界に関する研究
- 柔道整復臨床における運動器疼痛症状の慢性化予防～心理的側面からの検討と対策～
- 介護療養病床が介護医療院には転換する理由—政府の反応・経営者の理念・地域住民の信頼—

プログラムの構成と特徴

領域	専門分野
生活領域	リスクマネジメント学・家族社会学・ 環境生理学・食健康科学
健康・看護領域	精神医学・公衆衛生学・運動生理学・ 老年看護学・臨床看護学・基礎看護学
福祉領域	障害学・社会福祉学

生命・生活・社会について学ぶ教養学部の上に専門性の高い大学院があり、本プログラムの各領域は、多彩な専門分野の教授陣で構成されている。生活健康科学プログラムは、これらの学問領域における高度な専門的知識を身に付け、人々の健康と福祉の向上を目指し、社会へ貢献できる人材育成の基盤となる学際的プログラムである。

入学から修了までの主な流れ



博士課程学生は、主指導教員が主宰するゼミに所属し、各自の研究の進捗報告や、他の学生との議論を通じて研究のスキルを磨き、自身の研究をブラッシュアップして、博士論文作成を目指す。

博士課程の年次ごとの流れ（例）

1年次	4月	オリエンテーション	
		生活健康科学特論 前半	} → <u>研究レポート</u>
	6月	生活健康科学特論 後半	
	6月	<u>プログラム報告会</u>	
	2学期	生活健康科学プログラムの研究法 →	<u>研究レポート</u>
2年次	6月	<u>プログラム報告会</u>	
	2学期	副研究指導教員 (マイナー分野) のプログラムの研究法 →	<u>研究レポート</u>
3年次	6月	<u>プログラム報告会</u>	
	7～8月	博士予備論文審査	
	11月	<u>本論文提出</u>	
	12月	審査	
	1月	口頭試問	
	3月	<u>学位取得</u>	

学位取得の要件

指導教員： **主**研究指導教員 1名

副研究指導教員 2名

〔 1名は所属プログラムの教員
1名は他プログラムの教員

- ① **3年間の在籍期間**が必要
- ② 取得すべき単位（17単位） 生活健康科学特論、研究法、特定研究
- ③ 年1回（計3回）行われる**博士中間報告会で発表**をする
- ④ **査読付き学術論文**（またはそれに匹敵する論文） 2報以上の出版
- ⑤ ④を経た後、**予備論文審査**へ進む
- ⑥ 予備論文審査で、**本論文の提出が認められた後**、本論文作成→提出
- ⑦ **本論文審査**
審査会による試問
- ⑧ ⑦に**合格してはじめて博士の学位が授与**される

博士課程への入学を考えている方へ

- ・ 博士課程は**3年間の在籍期間**がありますが、博士論文提出前に**予備論文審査**があり、その時点で**査読付き論文2報**が出版されていることが必須です。
- ・ **査読付き論文**は、投稿してから採択されるまでに時間がかかることもあり、3年次に入ってから投稿準備をするのでは遅いかもしれません。
実質的に**学位論文に使える時間は2年2か月**といえるでしょう。
- ・ 十分な準備と覚悟をもって取り組むことが望まれます。